

平成29年9月

板倉征史 学位論文審査要旨

主査 小川 敏 英
副主査 吉岡 伸 一
同 兼子 幸 一

主論文

Association between social functioning and prefrontal cortex function during a verbal fluency task in schizophrenia: A near-infrared spectroscopic study

(統合失調症における社会機能と語流暢課題中の前頭前皮質機能の関係：近赤外線分光法による研究)

(著者：板倉征史、朴盛弘、大立博昭、松村博史、横山勝利、長田泉美、岩田正明、兼子幸一)

平成29年 Psychiatry and Clinical Neurosciences 掲載予定

参考論文

1. Self-reported social functioning and prefrontal hemodynamic responses during a cognitive task in schizophrenia

(統合失調症における自記式社会機能と認知課題中の前頭前野の血液動態反応)

(著者：朴盛弘、中込和幸、板倉征史、山梨豪彦、杉江拓也、三浦明彦、佐竹隆宏、岩田正明、長田泉美、兼子幸一)

平成27年 Psychiatry Research: Neuroimaging 234巻 121頁～129頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は統合失調症患者を対象にSpecific Level of Functioning Assessmentにより社会機能を評価するとともに、光トポグラフィ検査を用いて語流暢課題遂行中の前頭前皮質領域の脳血流変化と社会機能との関連を検討したものである。その結果、社会機能の主観的評価と客観的評価は正の相関を示し、また、背外側前頭前皮質/前頭極領域の脳活動と社会機能が関連していることが明らかとなった。本論文の内容は、統合失調症の社会機能障害の神経生理学的基盤の一端を解明したものであり、統合失調症研究の神経画像研究分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。